

## ■ ミッドナイト v s 痴漢生徒

超人世界でヒーローとして活躍する『ミッドナイト』こと香山 睡 (かやま ねむり)。

現在はヒーロー育成校・雄英の女教師であり、今日も電車で雄英から自宅へと帰宅していた。

(こういう時、移動系の個性もってるサイドキックがいれば便利なのにねえ。……………?)

対人戦では非常に強力な個性を持つミッドナイト。

しかしその他は当然、普通の女性であり、上位のヒーローでありながら電車移動することに苛立ちを覚えていた、その時……

臀部に、軽く触れる物体に気付く。

(……事故じゃないわね。よりによってヒーローに痴漢するなんてバカな男ねえ……)

物体……手が、電車が揺れた拍子などではなく、意図的に触れて来ている。つまり痴漢である、と確信したミッドナイト。

すぐさま手を捻じり上げ、現行犯逮捕しようとしたが……痴漢した者の服が目に入った時、僅かに動きが緩む。

(これ……ウチの制服？ ウソでしょ……)

まさか痴漢の正体が、ヒーロー科名門校、それも自身の務める校の生徒だったとは。

驚愕の瞬間だけ、拘束の動作が遅れ……手を握り上げる直前、痴漢少年の別の手がミッドナイトの股間に触れる。

「っっっ?!」

(なに、今の……! この子の個性? 力が、抜けて……)

その瞬間、強い脱力感と心地よさを伴う甘い電流——性の快楽が身体中を奔り抜ける。

結果としてミッドナイトは一瞬にして無力化され、非力で無抵抗なただの牝と化してしまう。

「ちょっと……待ちなさ……」

(感覚操作? こんな個性、ウチの生徒にはなかったはず……! この私が、生徒なんか……)

初見殺しの能力で先手を取って敵を無力化させるのを得意とするミッドナイトが、生徒に同じ手で制される。

屈辱感に駆られるが、それに比例しているかのように体内の媚熱が広がり、深く沁み込んでいく。

「っ……く、ふ……っ♥」

(手付きは全然、慣れてないのに……発情効果のせいで、もう感じてきてる……? ヤバ、声が……♥)

少年の若い手が欲望のままに熟れた牝肉を撫で回す。

責めの技術自体は稚拙なのだが、個性が強力なのか、相性がいいのか……丹念に愛撫された時のような発熱ぶりに、思わず嬌声が漏れていた。

ミッドナイトとしては、生徒にいいようにされるのは教師として、ヒーローとして受け入れるわけにはいかない。

せめてもの抵抗として何とか声を抑えようとするが、それを知ってか否か、少年の責めが加速。

大人の手に余るほど実った柔らかな爆乳に指が食い込み、むっちりとして重量感のある爆尻が乱暴に揉み回される。

そして時折、絶妙なタイミングで陰唇と陰核に訪れる優しくも激しい刺激。それらがミッドナイトを快楽の頂へと押し上げていく。

「ふっ……う♥ あ♥ やめ♥ そんな♥ あ……♥」

(これ、ヤバい……♥ ヒーローの女教師が生徒の痴漢にイカされるなんて、冗談じゃないわ……♥)

ただ触ってるだけなんだから、耐えられるはず……♥ 『18禁ヒーロー』を舐めないでよっ♥)

そう、ミッドナイトは前代未聞の『18禁ヒーロー』。性犯罪への対処を最も得意としており、また性戯に関しても全ヒーロー中最高位。

不意打ちで感覚操作されたとはいえ、性犯罪者に対して性戯で屈することだけはプライドが許さない。

既に常人であれば絶頂必至な快楽。その何倍もの肉悦をヒーローとしての矜持と誇りで耐えるが、勃起しきった乳首を弾かれた途端——

「ふう……っ♥ んんっ♥ ふうう——っ♥」

びんっ♥♥

「んおっ♥♥ 乳首っ♥♥」

ブシュ♥♥ ブシャァァッ♥♥

「んんんん………ッッ♥♥♥♥」

弱点である勃起乳首を強かに打たれ、遂に快楽が限界を超える。

何とか大声だけは出さずに済んだものの、ミッドナイトは快楽の余り思わず蟹股となり、開いた股間からは牝潮を噴き出してしまっていた。

(軽く……だけど……♥♥ イカされた………ッッ♥♥♥♥ 生徒なんか……♥ 私………ッッ♥♥♥♥)

あろうことか、痴漢生徒に力づくで絶頂させられたミッドナイト。

快楽の余韻が残る身体を引き摺り、呆然自失としたまま降車口へと歩くのであった……

◆  
——翌日。

(……昨日は酷い目に遭ったわ。たまーにいのよね、試験で見つけ出せない強個性持ってるコって……)

出勤のため、駅で電車を待つミッドナイトは、夕べの屈辱を振り返っていた。

雄英や公的なチェックでは、個性の完全な確認は不可能。個性は変化する場合もあり、どんな能力なのか本人が自覚していない可能性すらある。

何にせよ、あの生徒が故意に痴漢をしていたこと……そしてミッドナイトが絶頂させられたのは事実。

このままでは舐められてしまう。かと言って個人特定もできず、直接聞き出すことも不可能。

よって、再び電車に乗り、痴漢生徒をおびき出すことにした。  
いわば、痴漢四捜査だ。ミッドナイトの得意とする仕事であり、今度こそは、と燃え上がっていた。  
むしろ強い嗜虐心を隠せず、思わず舌なめずりしてしまう。  
(どれだけ強い催眠だろうと、タネが分かれば怖くないわ。ふふ……本当の強個性ってのを教えてア・ゲ・ル……♡)

……..  
……………

「つぐ♡ お♡ ん♡ つふ♡ ふっ♡ つひ♡ つお♡ お♡ お♡ お……………つつ♡♡」  
……数分後。  
再び現れた痴漢生徒。ミッドナイトは拘束も正体の確認もできず、あっさりと快楽の虜にされていた。  
吊革を掴んだ万歳したまま無防備な蟹股となり、成す術も無く揉みくちやにされ続ける。  
「んひっ♡ あ♡ はあ…………♡ んんううっ♡ つっひ…………♡♡」  
(なんなのよこの子っ♡ 昨日より上手くなってる♡ 個性も強くなって……あひっ♡♡ 乳首ッ♡♡)  
どんな敵なのかさえ分かれば、プロの相手ではない。  
そう思って痴漢に挑んだミッドナイトだが、昨日よりも上達した性戯と個性の力により、早くも一度目の絶頂が近付いていた。  
(私が♡ こんなに早くイカされそうだなって♡ 有り得ない♡ 『18禁ヒーロー』の名にかけて、今すぐ捕まえ……)

がしいっ♡

「んあッ♡♡」  
息巻いた瞬間、尻肉を鷲掴みにされて間抜けな喘ぎを奏でてしまう。  
絶頂こそ我慢できたが、完全に隙だらけとなり……パンツをズラされ、痴漢の前に性器を露出させられる。  
そして露出した外陰唇には、熱く硬い感触が触れている。

(ウソでしょ……これ……♡ まさか♡ 電車の中で……♡♡)

ずばおおっ♡

「はおおおおんっ♡♡」  
そのまさかが実現されてしまった。電車の中での挿入……非現実的な電車強姦に、ミッドナイトの強い性欲が被虐と倒錯に燃え上がっていく。  
(そんなん♡ 痴漢なんか♡ 生徒なんか♡ 痴漢レイプされるなんてえっ♡♡)  
悔しさや屈辱を塗り潰す、強烈な快楽。顔は涙を浮かべつつも微笑んでいるように緩んだ表情となり、唾液を垂れ流して更に紅潮していく。  
(あああっ♡ 痴漢のっ♡ 生徒のおちんちんっ♡ 咥え込んじゃってるうっ♡♡)

ずばんっ♡ ばあんっ♡

「んっひっ♡ ひいいいっ♡」  
(きっ♡ 気持ち良いっ♡ このおちんちんっ♡ 気持ち良いのおっ♡♡)  
太く、硬く、熱い肉棒が膣肉を抉り、快感が跳ね上がる。とうとうアクメに至りそうになり……同時に、生徒の方も肉棒を震えさせていた。  
「ひいんっ♡ らめ♡ それだけは……………つつ♡♡」  
(中出しする気っ?!♡ いくらなんでも♡ それだけはダメよおっ♡)

体験版はここまでです。続きは製品版で！